

---

**中心市街地活性化基本計画  
平成 29 年度最終フォローアップ報告**

---

**平成 30 年 8 月**

**内閣府地方創生推進事務局**

# 目 次

- I. 中心市街地活性化基本計画 平成 29 年度最終フォローアップの概要 … 1 ページ
- II. 目標指標分野別分析結果の概要 …………… 3 ページ
  - (1) 集計結果
  - (2) 取組の進捗状況
  - (3) 目標達成の状況
  - (4) 基準値からの改善状況
- III. 計画期間終了後の中心市街地の状況 …………… 8 ページ
  - (1) 進捗・完了状況及び活性化状況について
  - (2) 中心市街地活性化協議会の評価について
  - (3) 市民からの評価、市民意識の変化について
- IV. 好取組事例 …………… 10 ページ
- V. 取組の進捗・完了状況及び目標達成状況に関する各自治体からの報告 17 ページ

# I. 中心市街地活性化基本計画 平成 29 年度最終フォローアップの概要

## 最終フォローアップについて

- 国の認定を受けた中心市街地活性化基本計画では、各自治体が複数の目標を掲げている。各目標においては、その達成状況を的確に把握できるよう、定量的な指標（目標指標）を設定している。
- 当該基本計画については、各自治体自ら計画期間満了後に、取組（事業等）が予定どおり進捗したのか、目標は達成されたのか等を自己評価（最終フォローアップ）として報告して頂いている。
- 平成 29 年度最終フォローアップの対象となる 21 市の 21 計画では、合計 65 の目標指標が設定されており、各種事業等をもって目標達成に向けた取組が行われてきたところであり、その評価結果をとりまとめる。

## 平成 29 年度最終フォローアップ対象計画

**21 市 21 計画 65 指標** （詳細は P. 17～18 に掲載）

【参考：平成 28 年度】11 市 11 計画 33 指標

## 取組の進捗状況と目標達成状況に関する集計結果

- 最終フォローアップ対象の全 65 指標について下記の分類により集計を行った。

### <取組の進捗状況及び目標達成状況の分類>

- A（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。）
  - a（計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。）
- B（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。）
  - b（計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。）
- C（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも及ばなかった。）
  - c（計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも及ばなかった。）

	事業は概ね予定どおり進捗・完了	事業は予定どおりには進捗・完了しなかった
目標達成	<b>A : 27 指標 (42%)</b> (平成28年度: 13 指標 (40%))	<b>a : 3 指標 (5%)</b> (平成28年度: 1 指標 (3%))
目標は未達成だが、計画当初より改善	<b>B : 8 指標 (12%)</b> (平成28年度: 8 指標 (24%))	<b>b : 2 指標 (3%)</b> (平成28年度: 1 指標 (3%))
計画当初より悪化	<b>C : 16 指標 (25%)</b> (平成28年度: 9 指標 (27%))	<b>c : 9 指標 (14%)</b> (平成28年度: 1 指標 (3%))

(参考)

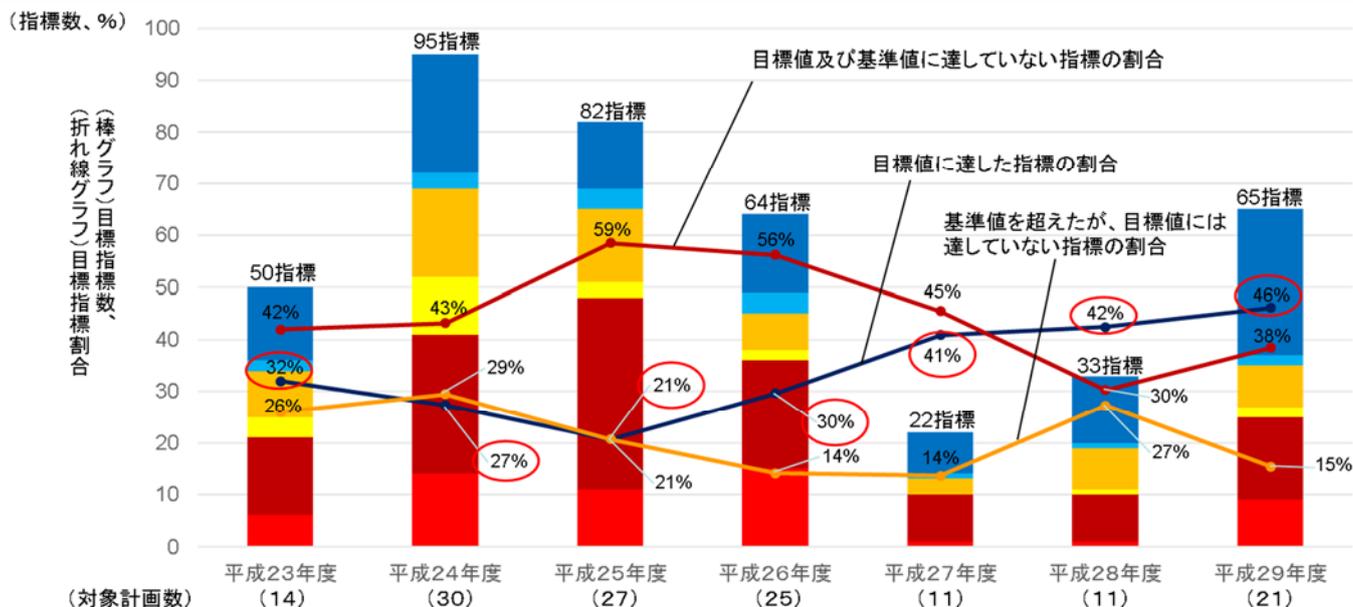
最終フォローアップにおける評価指標の目標達成状況

平成30年8月現在、累計142市2町225計画が中心市街地活性化基本計画の認定を受け、うち115市139計画について、計画期間終了後、最終フォローアップ報告書を作成(次の計画期間に入っている自治体を含む)。

最終フォローアップにおける、各計画の評価指標(411指標)の目標達成状況は以下のとおり。

	目標達成	目標は未達だが、計画当初より改善
にぎわいの創出 219指標 (115市138計画)	77指標 (35.2%) (53市61計画)	52指標 (23.7%) (42市46計画)
街なか居住の推進 85指標 (73市85計画)	17指標 (20.0%) (16市17計画)	18指標 (21.2%) (16市18計画)
経済活力の向上 69指標 (55市62計画)	18指標 (26.1%) (18市18計画)	12指標 (17.4%) (12市12計画)
公共交通の利便の増進 16指標 (11市15計画)	8指標 (50.0%) (7市8計画)	4指標 (25.0%) (4市4計画)
その他 22指標 (20市20計画)	11指標 (50.0%) (11市11計画)	3指標 (13.6%) (3市3計画)
<b>合計</b> <b>411指標 (115市139計画)</b>	<b>131指標 (31.9%)</b> <b>(71市84計画)</b>	<b>89指標 (21.7%)</b> <b>(60市67計画)</b>

中心市街地活性化基本計画における目標達成状況の推移について



注:最終フォローアップにおいて、計画期間終了年度における目標達成状況等を確認したもの。

(凡例)

- A : 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えている。
- a : 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えている。
- B : 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えたが、目標値には達していない。
- b : 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。
- C : 計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。
- c : 計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。
- A+a : 全目標指標におけるA又はaの割合(目標値に達した指標の割合)。
- B+b : 全目標指標におけるB又はbの割合(基準値を超えたが、目標値には達していない指標の割合)。
- C+c : 全目標指標におけるC又はcの割合(目標値及び基準値にも達していない指標の割合)。

## II. 目標指標分野別分析結果の概要

各自治体が最終フォローアップを行った目標指標を4分野に分類し、各分野の取組の進捗状況、目標達成状況、基準値からの改善状況等について分析した。

### (1) 集計結果

#### 目標指標分野別集計結果

- 各自治体が最終フォローアップを行った目標指標に係る取組の進捗・完了状況及び目標達成の状況等について、以下の①～④の4つに分類した上で集計を行った。

達成状況	全体	① にぎわいの創出	② 街なか居住の推進	③ 経済活力の向上	④ 公共交通の利便の増進
A	27(42%)	15	3	7	2
a	3(5%)	2	1	0	0
B	8(12%)	4	1	2	1
b	2(3%)	1	1	0	0
C	16(25%)	9	5	1	1
c	9(14%)	4	3	2	0
合計	65	35	14	12	4

※( )書きは、全体に占める割合である。

目標指標分類	主な目標指標	主な取組例
① にぎわいの創出	歩行者・自転車通行量、観光・文化施設入込客数 等	観光センター整備事業、賑わい交流施設整備事業、地域交流センター整備事業、歩行者空間整備事業、図書館・美術館整備事業 等
② 街なか居住の推進	居住人口、社会増減、市全体の人口に対する中心市街地の人口の割合 等	市街地再開発事業、優良建築物等整備事業、住宅取得資金利子補給事業 等
③ 経済活力の向上	空き店舗数、従業者数、新規開業数、小売業年間商品販売額 等	空き店舗等活用事業、テナントミックス推進事業、まちなか出店支援事業、町屋等活用事業 等
④ 公共交通の利便の増進	路面電車乗降人員数、まちなか循環バス・乗合タクシー利用者数 等	軌道・電停等整備事業、公共交通利便増進プロジェクト 等

## (2)取組の進捗状況

- 取組（事業等）の進捗が順調である<sup>(注1)</sup> 目標指標は、全体の78%である。（平成28年度 91%）
- 「経済活力の向上」、「公共交通機関の利便の増進」等に関する目標指標は、取組の進捗が順調である目標指標の割合（取組順調率）が全体平均よりも高い<sup>(注2)</sup>。
- 一方で、「街なか居住の推進」に関する目標指標の取組順調率は、全体平均よりも低い<sup>(注2)</sup>。

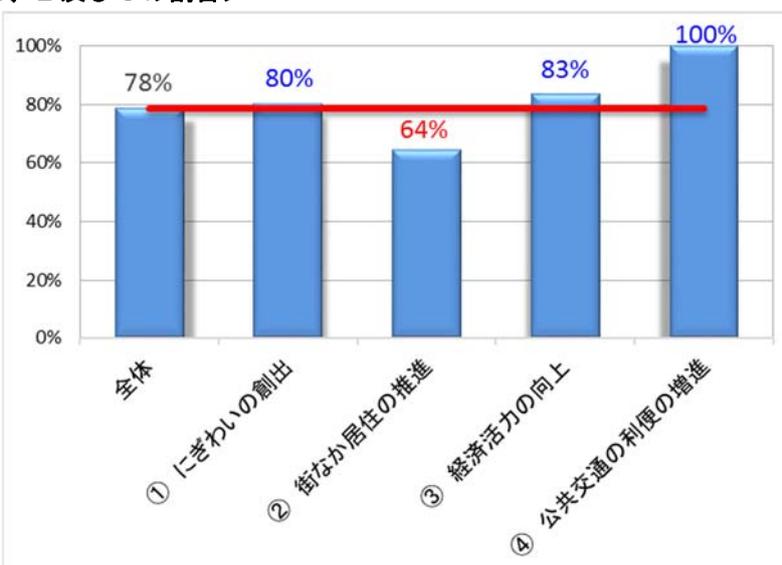
### 取組の進捗状況に関する分析結果

<各目標指標分野の取組の進捗状況の割合>

	全体	① にぎわいの創出	② 街なか居住の推進	③ 経済活力の向上	④ 公共交通の利便の増進
A+B+C	51	28	9	10	4
a+b+c	14	7	5	2	0
合計	65	35	14	12	4
<b>取組順調率</b>	<b>78%</b>	<b>80%</b>	<b>64%</b>	<b>83%</b>	<b>100%</b>

$$\text{取組順調率} = (A + B + C) / (A + \underline{a} + B + \underline{b} + C + \underline{c})$$

<目標指標分野別のA、B及びCの割合>



(注1) 取組の進捗状況及び目標達成状況の分類（P1参照）のうち、「取組（事業等）の進捗が順調である」ものとは、A、B及びCが該当する。

(注2) 全目標指標のうち取組順調率が78%であるため、これと比較して数値が大きい（小さい）場合には、「取組順調率が全体平均よりも高い（低い）」としている。

### (3)目標達成の状況

○ 目標を達成した<sup>(注1)</sup> 目標指標は、全体の46%である。

(平成28年度 42%)

○ 「経済活力の向上」等に関する目標指標は、目標を達成した目標指標の割合(目達達成率)が全体平均よりも高い<sup>(注2)</sup>。

○ 一方で、「街なか居住の推進」に関する目標指標の目標達成率は、全体平均よりも低い<sup>(注2)</sup>。

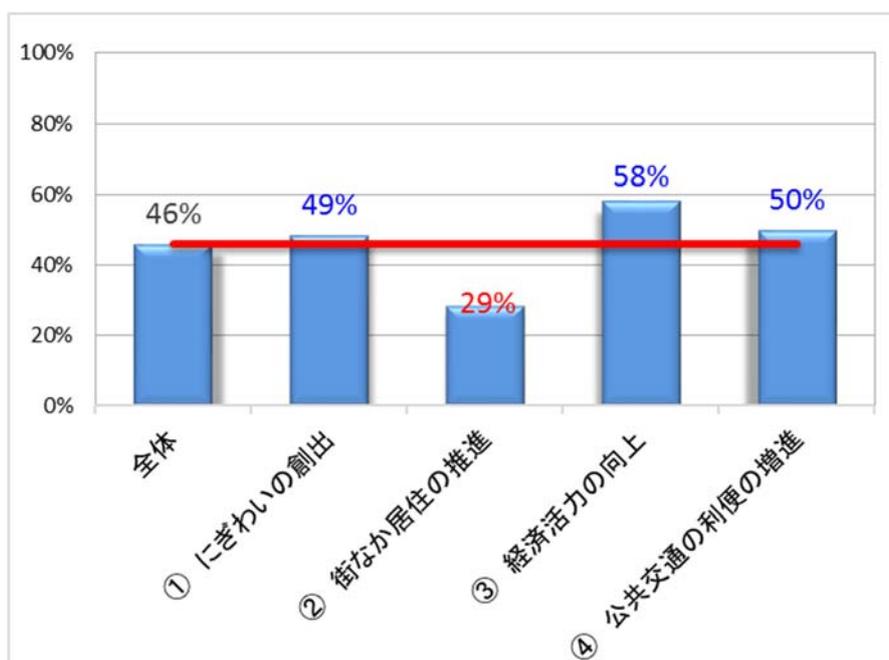
#### 目標達成状況に関する分析結果

<各目標指標分野のA及びaの割合>

	全体	① にぎわいの創出	② 街なか居住の推進	③ 経済活力の向上	④ 公共交通の利便の増進
A+a	30	17	4	7	2
B+b+C+c	35	18	10	5	2
合計	65	35	14	12	4
目標達成率	<b>46%</b>	<b>49%</b>	<b>29%</b>	<b>58%</b>	<b>50%</b>

$$\text{目標達成率} = (A + a) / (A + a + B + b + C + c)$$

<目標指標分野別目達見込率の比較>



(注1) 取組の進捗状況及び目標達成状況の分類(P1参照)のうち、「目標を達成した」ものとは、A及びaが該当する。

(注2) 全目標指標の目標達成率が46%であったため、これと比較して数値が大きい(小さい)場合には、「目標達成率が全体平均よりも高い(低い)」としている。

## 目標が達成できなかった主な要因

- 目標が達成できなかった 35 指標について、その主な要因としては、
  - ①事業の遅延または未着手により、計画期間内に効果が発現しなかったこと
  - ②事業は概ね予定通りに進捗したものの、当初想定していた効果が得られなかったり、外的な要因により効果が相殺されたことが挙げられる。
- ①事業の遅延または未着手により、計画期間内に効果が発現しなかったケースについては、具体的には、ハード事業に関し、以下のような遅延または未着手の要因が挙げられている。
  - ・地権者や民間事業者との合意形成に時間を要したこと
  - ・事業内容の変更に伴い時間を要したこと
  - ・資材費や人件費の高騰により民間事業者が事業を断念したこと
- ②事業は概ね予定通りに進捗したものの、当初想定していた効果が得られなかったり、外的な要因により効果が相殺されたケースについては、具体的には、以下のような要因が挙げられている。
  - ・「にぎわいの創出」の分野では、交流拠点整備等のハード事業は完了し、一定のエリアでは賑わいが生まれたが、その効果が限定的で回遊性を生み出すまでには至らなかったこと、イベント開催等のソフト事業により来街のきっかけづくりにはつながったが、平常時の再来街にはつながっていないこと、また、東日本大震災による個人消費の落ち込み等の影響から取組の効果が限定的であったこと
  - ・「街なか居住の推進」の分野では、マンション建設等のハード事業は完了し、居住者の増加に寄与したものの、人口減少・少子高齢化が想定以上に進行したこと、また、街なか居住を支援するソフト事業の活用件数が想定を下回ったこと
  - ・「経済活力の向上」の分野では、地域内での大型商業施設の閉店や想定を超える空き店舗の増加が見られたこと

## 計画変更等により状況が改善した主な例

- 計画期間中に計画変更等を行った結果、状況が改善したと評価された目標指標は 8 指標あり、そのうち 3 指標が目標を達成した。
- 例えば、計画変更等により、駅周辺の市民病院跡地を活用した複合施設において、大学の駅前キャンパスや産学官連携推進センターを整備する事業を追加したことにより、学生を中心とした若者の活動量が高まり、回遊性が向上したもののや、インバウンドを含めた観光客数の増加が見込まれる状況において、新たな大型イベントの開催等を追加したことで、賑わいの創出に寄与したものが挙げられる。
- また、計画変更等により、街なか居住の更なる推進を図るための優良建築物等整備事業や、賑わいの創出を図るための観光施設整備事業を追加したことにより、最終フォローアップにおいてその効果が反映できなかったものについても、今後、その効果の発現が期待され、引き続きフォローアップを行うこととしているものなどが挙げられる。

## (4) 基準値からの改善状況

- 現況（実績値）が基本計画策定時の状況（基準値）から改善している<sup>(注1)</sup>  
目標指標は、全体の62%である。（平成28年度 70%）
- 「経済活力の向上」、「公共交通の利便の増進」等に関する目標指標は、実績値が基準値から改善している目標指標の割合（基準値改善率）が全体平均より高い<sup>(注2)</sup>。
- 一方で、「街なか居住の推進」に関する目標指標は、基準値改善率が全体平均よりも低い<sup>(注2)</sup>。

### 基準値からの改善状況に関する分析結果

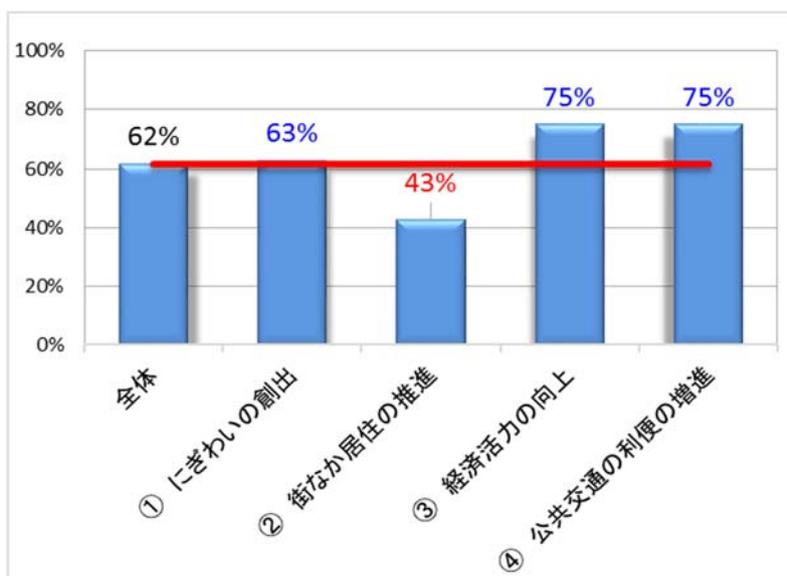
#### <各目標指標分野の改善状況及び目標達成状況>

	全体	① にぎわいの創出	② 街なか居住の推進	③ 経済活力の向上	④ 公共交通の利便の増進
基準値より改善	40	22	6	9	3
(うち、目標達成)	30	17	4	7	2
基準値より悪化	25	13	8	3	1
合計	65	35	14	12	4
<b>基準値改善率</b>	<b>62%</b>	<b>63%</b>	<b>43%</b>	<b>75%</b>	<b>75%</b>
<b>目標達成率</b>	<b>46%</b>	<b>49%</b>	<b>29%</b>	<b>58%</b>	<b>50%</b>

$$\text{基準値改善率} = (A + \underline{a} + B + \underline{b}) / (A + \underline{a} + B + \underline{b} + C + \underline{c})$$

$$\text{目標達成率} = (A + \underline{a}) / (A + \underline{a} + B + \underline{b} + C + \underline{c})$$

#### <目標指標分野別基準値改善率の比較>



(注1) 取組の進捗状況及び目標達成状況の分類（P1参照）のうち、「現況（実績値）が基本計画策定時の状況（基準値）から改善している」ものは、A、a、B及びbが該当する。

(注2) 全目標指標の基準値改善率が62%であったため、これと比較して数値が大きい（小さい）場合には、「基準値改善率が全体平均よりも高い（低い）」としている。

### Ⅲ. 計画期間終了後の中心市街地の状況

各自治体が市街地の状況や中心市街地活性化協議会及び市民の意見等を参考に、計画した事業が順調に進捗・完了したかどうか、また、中心市街地という単位で活性化が図られたかどうかについて総合的な判断を行った。

#### (1) 進捗・完了状況及び活性化状況に係る自治体の評価について

- 対象21市21計画のうち18計画について、計画した事業が概ね順調に進捗・完了したと判断している。
- 対象21市21計画のうち全21計画について、各自治体の自己評価により中心市街地の活性化が図られたとされている。

##### 【進捗・完了状況】

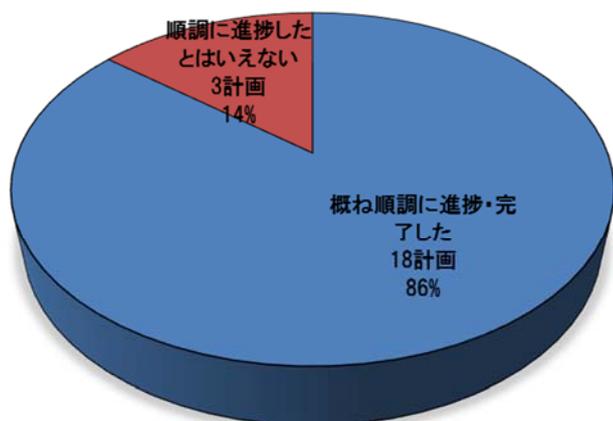
(計画期間終了後の状況)	概ね順調に進捗・完了した	順調に進捗したとはいえない
計画数(全21計画)	18計画	3計画

##### 【活性化状況】

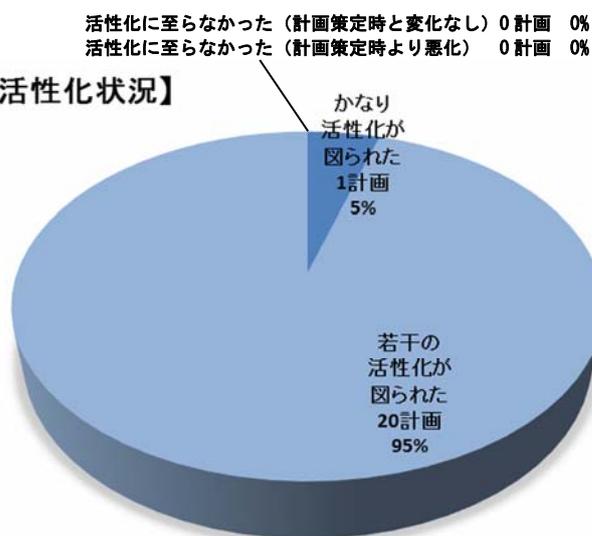
(計画期間終了後の状況)	かなり活性化が図られた	若干の活性化が図られた	活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)	活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)
計画数(全21計画)	1計画	20計画	0計画	0計画

※計画した事業は予定通り進捗・完了したのか。また、中心市街地の活性化は図られたのかを個別指標毎ではなく中心市街地の状況を自治体が総合的に判断。

##### 【進捗・完了状況】



##### 【活性化状況】



## (2) 中心市街地活性化協議会の評価について

- 対象21市21計画のうち全21計画について、各自治体の中心市街地活性化協議会により中心市街地の活性化が図られたとされている。

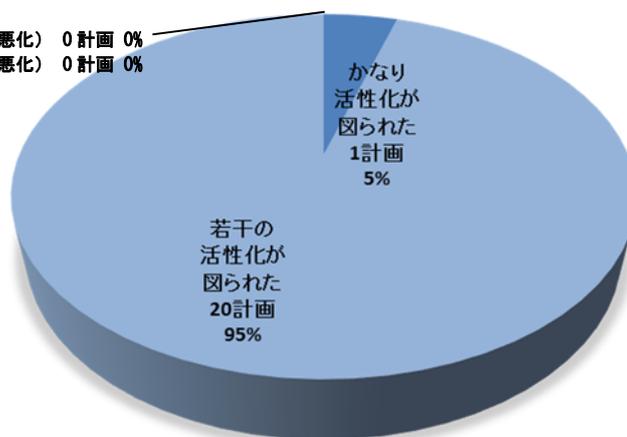
### 【中心市街地活性化協議会としての活性化状況の評価】

(計画期間終了後の状況)	かなり活性化が図られた	若干の活性化が図られた	活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)	活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)
計画数(全21計画)	1計画	20計画	0計画	0計画

※中心市街地という単位で活性化が図られたかどうかを中心市街地活性化協議会として判断。

活性化に至らなかった(計画策定時より悪化) 0計画 0%

活性化に至らなかった(計画策定時より悪化) 0計画 0%



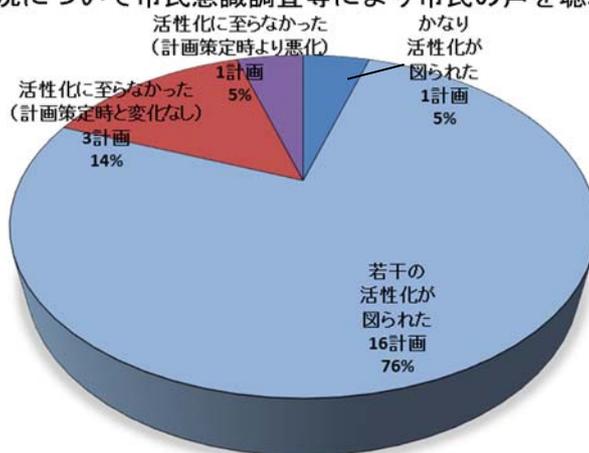
## (3) 市民からの評価、市民意識の変化について

- 対象21市21計画のうち17計画について、各自治体の市民により中心市街地の活性化が図られたとされている。

### 【市民からの評価、市民意識の変化について】

(計画期間終了後の状況)	かなり活性化が図られた	若干の活性化が図られた	活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)	活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)
計画数(全21計画)	1計画	16計画	3計画	1計画

※中心市街地の活性化状況について市民意識調査等により市民の声を聴取し、市民意識の変化を総合的に判断。



## IV. 好取組事例

### ○歩行者通行量の増加に繋がっている事例

市町村名	藤枝市(静岡県)【平成25年3月29日認定】		人口(平成27年国勢調査)	143,605人	
計画期間	平成25年4月～平成30年3月				
目標指標	歩行者通行量				
基準値	8,738人 (平成23年)	目標値	10,350人 (平成29年)	実績値	10,435人 (平成29年)
取組概要	<p>○藤枝駅南口開発B街区複合施設整備事業により、ホテルやバンケット、結婚式場、商業施設、オフィスなどを兼ね備えた複合施設が平成28年3月にオープンし、施設利用者数は順調に増加している。</p> <p>○市立総合病院跡地を活用した複合商業施設であるBiVi藤枝内に、平成25年4月に美容学校が開校、また静岡産業大学の駅前キャンパスと連携した藤枝市産学官連携推進センターを開設する事業を平成29年11月に基本計画変更にて新たに追加するなどしたことにより、学生を中心とした若者の活動量が高まった。</p> <p>○民間による大型マンションや駅南口商業施設などの整備により来街者が増えたことに加え、イベント広場として一部整備された駅南口広場や駅南北のメイン道路を中心とした、年間を通じた様々な民間主体等によるイベント実施(て～しゃばストリート、ラブローカルマーケット等)が歩行者通行量増加の一因となっている。</p> <p>○駅南地区では事業が順調に進んだこともあり歩行者通行量が増加した一方、駅北地区は事業が遅れていることもあり、歩行者通行量は減少傾向が続いている。また、歩行者通行量を時間帯別にみると、昼間の時間帯(午前9時～午後5時)では減少傾向がみられるなど、昼間の賑わいという点で課題を有していることから、今後は昼間の活動や交流を生み出す施設の整備や立地誘導、仕掛けづくりに取り組む必要があると考えられる。</p>				
					
	<p>&lt; 藤枝駅南口開発B街区複合施設整備事業 &gt;</p>		<p>&lt; 藤枝市産学官連携推進センター &gt;</p>		

## ○施設入込数等の増加に繋がっている事例

市町村名	大野市(福井県)【平成 25 年3月 29 日認定】		人口(平成 27 年国勢調査)	33,109 人	
計画期間	平成 25 年4月 ~ 平成 30 年3月				
目標指標	関連施設の年間入込み客数(中心市街地主要4施設)				
基準値	136,093 人 (平成 23 年)	目標値	144,000 人 (平成 29 年)	実績値	200,754 人 (平成 29 年)
取組概要	<p>○「歴史的建造物保存整備事業(大野市)」による武家屋敷旧田村家の開館(平成 27 年4月)に合わせた散策ルートの設定や、施設入館パスポートの発行、まちなか観光アプリ「結なび」の活用などまちなかを有機的に回遊する仕組みによって、「天空の城」として有名になった越前大野城により増加した観光客をまちなかに誘導するなど、入込み客数は順調に推移した。</p> <p>○加えて、まちなかと郊外の観光資源を結びつける観光ルートの開発、宿泊を伴う観光客を誘致する「結の故郷おもてなし事業(大野市)」の実施により、平成 29 年度はまちなか遠足 52 件 4,126 人、まちなか散策誘致 290 件 10,738 人が訪れるなど効果が出ている。</p> <p>○まちなかの店舗での消費と回遊性を促進する「食べ歩き見て歩きマップ(株)結のまち越前おおの発行)」の活用など既存のソフト事業を継続しつつ、今後は、まちなか観光アプリ「結なび」の機能強化事業や、大野ならではの観光体験メニュー開発補助事業などの新規事業を実施する。</p>				
					
	<p>&lt;越前大野城&gt;</p>		<p>&lt;結の故郷おもてなし事業&gt;</p>		

## ○施設入込数等の増加に繋がっている事例

市町村名	十日町市(新潟県)【平成 25 年6月 28 日認定】		人口(平成 27 年国勢調査)	54,917 人	
計画期間	平成 25 年7月 ~ 平成 30 年3月				
目標指標	文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数(年間)				
基準値	126,682 人/年 (平成 19~23 年の平均)	目標値	148,000 人/年 (平成 29 年)	実績値	188,169 人/年 (平成 29 年)
取組概要	<p>○市民文化ホール・中央公民館(平成 29 年 11 月)や市民活動センター・まちなか公民館(平成 28 年6月)などの公益施設をまちなかに整備したことにより、これらの施設がにぎわいやまちづくり活動、文化活動の拠点となり、既存の公民館活動がまちなかで展開されることや当該施設を活用した新たな市民活動が生まれた。</p> <p>○市民交流センター(平成 28 年6月)等の建設にあたって計画段階から市民を交えた検討を行うことで、施設に対する関心が高まり、完成後には新たな市民活動展開の場として利用されているほか、高校生などの学習の場としての利用も多い。</p> <p>○NPO法人にぎわいを中心に、中心市街地内のイベントや施設の情報をフリーペーパーや地域コミュニティラジオなどで発信することにより、まちなかに訪れ活動する人が増えた。</p> <p>○今後、各施設利用者の一層の増加を図るとともに、各施設間の連携を図り来街者の回遊を促すことで、中心市街地全体へにぎわいを波及させていくことが必要である。</p>				
					
	<p>&lt;市民文化ホール・中央公民館整備事業&gt;</p>		<p>&lt;フリーペーパー「まちなす通信」&gt;</p>		

## ○居住人口の増加に繋がっている事例

市町村名	豊田市(愛知県)【平成 25 年3月 29 日認定】		人口(平成 27 年国勢調査)	422,542 人	
計画期間	平成 25 年4月 ~ 平成 30 年3月				
目標指標	居住人口				
基準値	12,715 人 (平成 23 年)	目標値	13,140 人 (平成 29 年)	実績値	13,398 人 (平成 29 年)
取組概要	<p>○駅周辺再開発の一環である、豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業における商業施設・アミューズメント施設・高齢者福祉施設及び居住棟が一体となった再開発ビル「KITARA」が平成29年11月にオープンするなど事業が順調に進み、目標指標を上回る結果につながった。</p> <p>○この再開発事業の完了により、昭和 60 年から進められてきた豊田市駅周辺の再開発構想が完成し、市街地の整備改善・都市機能集約が図られたことや、歩行者専用道路の一部を広場化し、日常的な休憩・飲食スペースの設置、イベント等での利用を可能とする取組み(あそべるとよたプロジェクト)など、官民連携による公共的空間の積極的な活用によってエリアの魅力が向上したことも、まちなかへの居住の増加に寄与している。</p> <p>○今後は、大規模な居住施設等の整備計画はないが、エリアの価値をさらに向上させるために、継続的に官民が連携して賑わいや楽しみを発信し、魅力的なまちなかを形成することで、居住者の増加を図っていく。</p>				
					
	<p>&lt;豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業&gt;</p>		<p>&lt;駅前のペDESTリアンデッキ広場を活用した民間事業者によるオープンカフェの出店&gt;</p>		

## ○新規出店者数の増加に繋がっている事例

市町村名	岐阜市(岐阜県)【平成24年6月28日認定】		人口(平成27年国勢調査)	406,735人	
計画期間	平成24年10月～平成30年3月				
目標指標	新規出店店舗数(柳ヶ瀬地区)				
基準値	8.8店舗 (H19～H23までの年平均) (平成23年度)	目標値	11店舗 (H24～H29までの年平均) (平成29年度)	実績値	12.7店舗 (H24～H29までの年平均) (平成29年度)
取組概要	<p>○「空き店舗対策事業」では、店舗賃借料等の一部を助成、「中心商店街活性化プロデュース事業」では、空き店舗ツアーや専門家による出店希望者相談会を実施したことで、空き店舗への出店に意欲ある事業者を集積することが可能となり、市外からの出店者も含めた新規出店店舗数の増加につながった。</p> <p>○「サンデービルディングマーケット」については、柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社(まちづくり会社)と岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会(商店街)が中心となり、手仕事(クラフト)の商品等を扱う店舗を集めたイベントを定期的開催し、新たな若い層を中心とした固定顧客と実店舗に出店する可能性のある事業者を創出することに取り組んだ。さらに、これらの事業者のための、週末限定の短期出店スペース「ウィークエンドビルディングストアーズ」を、市が支援して商店街が平成27年11月に整備し、実施したことで、遊休化した大型ビルのリノベーションによる活用につながった。</p> <p>○また、大型ビルの遊休化していた区画を若い世代向けのコンテンツ(店舗、サービス、担い手など)が集積する店舗等へリノベーションする事業として、まちづくり会社が実施主体となる「遊休不動産のリノベーション活用事業(ロイヤル40)」を平成28年度から実施したことで、11区画に新たな出店が生まれた。その結果、若い世代が来街するようになったことで、まちの雰囲気の変化を肌で感じ、客足が増えたとの声が聞かれている。</p> <p>○今後は上記事業を更に加速させ、エリアの空間需要を喚起し、新規出店・事業などの投資が起こる持続可能なまちを目指していく。</p>				
					
	<p>&lt;サンデービルディングマーケット&gt;</p>		<p>&lt;ウィークエンドビルディングストアーズ&gt;</p>		<p>&lt;遊休不動産のリノベーション活用事業(ロイヤル40)&gt;</p>

## ○空き店舗等の減少に繋がっている事例

市町村名	八戸市(青森県)【平成 25 年3月 29 日認定】		人口(平成 27 年国勢調査)	231, 257 人	
計画期間	平成 25 年4月 ~ 平成 30 年3月				
目標指標	空き店舗・空き地率				
基準値	19.2% (平成 23 年)	目標値	13.0% (平成 29 年)	実績値	10.3% (平成 29 年)
取組概要	<p>○特定民間中心市街地経済活力向上事業を活用し、民間事業者により老朽化した2つの空きビルを解体し、平成 28 年7月に商業・オフィスを有する複合ビルを整備したことにより、空き店舗の解消に繋がったとともに、オフィス機能の入居や八戸市直営の書店「八戸ブックセンター」の開業(平成 28 年 12 月)など、中心市街地の空き店舗・空き地率の低下につながった。</p> <p>○八戸市が八戸商工会議所へ委託して行うはちのへ創業・事業承継サポートセンター事業などの実施により、起業や新規出店をしようとする事業者を支援するとともに、空き店舗の改装経費等の一部補助を行い、5年間で 16 件の新規出店があるなど、空き店舗・空き地の解消に寄与した。</p> <p>○目標は達成したものの、未だ空き店舗・空き地は存在することから、今後も中心商店街空き店舗・空き床解消事業等の支援の充実を図るとともに、商業機能誘致事業などにより、より魅力ある商店街づくりに取り組んでいく。</p>				
					
	<p>&lt;民間事業者により整備された複合ビル&gt;</p>		<p>&lt;はちのへ創業・事業承継サポートセンター&gt;</p>		

## ○公共交通機関乗車数の増加に繋がっている事例

市町村名	福井市(福井県)【平成 25 年3月 29 日認定】	人口(平成 27 年国勢調査)	265,904 人		
計画期間	平成 25 年4月 ~ 平成 30 年3月				
目標指標	公共交通機関乗車数(一日平均)				
基準値	16,378 人/日 (平成 23 年)	目標値	17,150 人/日 (平成 29 年)	実績値	18,021 人/日 (平成 29 年)
取組概要	<p>○「福井駅周辺土地区画整理事業」による福井駅西口広場のバス乗降場の整備(平成 28 年3月)や、「福井鉄道軌道・電停等整備事業」により福井鉄道駅前線を延伸(平成 28 年3月)したことで、バスと電車の乗換えが容易になるなど、中心部の交通結節点の利便性が向上した。</p> <p>○さらに、「福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業」をはじめとする福井駅西口再開発事業により、複合施設であるハピリンがオープン(平成 28 年4月)したことで、福井駅周辺が多くの人々で賑わい、公共交通機関乗車数の増加が図られた。</p> <p>○ハピリン横の屋根付き広場 ハピテラスでは、毎週末、多彩なイベントが開催されており、賑わいの創出や公共交通機関乗車数の増加に寄与している。</p> <p>○「福井駅周辺土地区画整理事業」については、平成 30 年度をもって完了する予定である。今後も関係機関と協議・調整を行い、事業完了を目指す。</p>				
	 <p>©福井市</p>		 <p>©福井市</p>		
	<p>&lt;福井駅西口再開発事業によりオープンした複合施設「ハピリン」&gt;</p>		<p>&lt;「福井駅周辺土地区画整理事業」により完成したバスターミナル&gt;</p>		

# V. 取組の進捗・完了状況及び目標達成状況に関する各自治体からの報告

## <評価分類>

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新実績でも目標値を超えることができた。)  
 a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績は目標値を超えることができた。)  
 B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)  
 b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)  
 C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも及ばなかった。)  
 c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも及ばなかった。)

## <進捗・完了状況>

- ① 概ね順調に進捗・完了した。  
 ② 順調に進捗したとはいえない。

## <活性化状況> (自治体評価、中心市街地活性化協議会評価、市民評価)

- ① かなり活性化が図られた。  
 ② 若干の活性化が図られた。  
 ③ 活性化に至らなかった。(計画策定時と変化なし)  
 ④ 活性化に至らなかった。(計画策定時より悪化)

都道府県名	市町村名	目標	目標指標	自治体評価			中活協議会 評価	市民 評価
				評価 分類	進捗・ 完了 状況	活性化 状況		
平成24年3月29日認定								
青森県	青森市	多くの人が訪れたい魅力ある中心市街地(街の楽しみづくり)	歩行者通行量(平日)	C	①	②	②	②
		多様な人々を迎え入れる中心市街地(交流街づくり)	年間観光施設入込客数	B				
		歩いて暮らしやすい中心市街地(街ぐらし)	夜間人口	C				
		中心市街地の商業の活性化	空き地・空き店舗率	A				
平成24年9月30日認定								
岐阜県	岐阜市	にぎわいの創出	歩行者・自転車通行量(柳ヶ瀬周辺地区)	c	①	②	②	②
			新規出店店舗数(柳ヶ瀬地区)	A				
		まちなか居住の推進	居住人口の社会増減数	a				
平成24年11月30日認定								
高知県	高知市	新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる	中心市街地の居住人口	C	①	②	②	③
		街なかの回遊性を向上させる	歩行者通行量(平日・休日合計)	C				
平成25年4月1日認定								
北海道	函館市	陸・空の交通拠点と観光拠点の回遊による賑わいの創出	中心市街地の年間観光入込客数	A	①	②	②	②
		市民生活に密着した商店街と集客拠点の回遊による賑わいの創出	歩行者通行量(平日・休日の平均)	A				
			路面電車の乗降人員数(1日乗車券除く)	A				
神奈川県	小田原市	訪れたい歩きやすいまちづくり	歩行者及び自転車通行者数(1日あたり)	c	②	②	②	①
		住みやすい暮らしやすいまちづくり	居住人口	c				
愛知県	安城市	都市機能の集積による「にぎわいのある都市拠点」の形成	歩行者通行量(平日・休日)	a	①	②	②	④
		安城にしかない魅力満載の「こだわり商店街」の形成	空き店舗数	A				
		人と環境にやさしい「まちなか居住環境」の形成	活性化事業に参加した市民の数	A				
		多様な主体との連携・協働による「市民が主役のまち」	活性化事業に参加した市民の数	A				
山口県	周南市	みんなが行きたくなる、魅力あるモノやサービスが溢れるまち	中心商店街等への新規出店数	B	①	②	②	②
		みんなが快適に過ごせる、歩きやすいまち	街なかの歩行者等通行量	C				
北海道	帯広市	街なか居住の促進により、居住人口の像を図る	街なか居住者数	c	②	②	②	②
		既存ストックの活用による賑わいの創出と魅力づくりにより、来街者、歩行者の増を図る	歩行者通行量(平日)	a				
青森県	八戸市	来街者を増やす	歩行者通行量(平日・休日の合計)	C	①	②	②	②
		定住を促進する	市全体に占める中心市街地の居住人口の割合	C				
		空き床を解消する	空き店舗・空き地率	A				
福井県	福井市	出会う人を増やす	公共交通機関乗車数(一日平均)	A	①	②	②	②
		暮らす人を増やす	観光案内所利用者数	A				
			人口の社会増減数	C				
		遊ぶ人を増やす	歩行者・自転車通行量(平日・休日平均)	C				
福井県	大野市	まちなか観光による交流人口の増加	関連施設の年間入り込み客数(中心市街地主要4施設)	A	①	①	①	②
		商店街を中心としたまちなか生活の充実	1日当たりの歩行者通行量(休日)	C				
		豊かな暮らしを支える公共交通の実現	まちなか循環バス、乗合タクシーの利用者数(年間)	C				
静岡県	藤枝市	人々が活発に活動・交流し、にぎわうまち	歩行者通行量	A	①	②	②	②
		志太平原地域の核となるまち	従業者数	A				
		安全・安心に生活が簡潔し、持続するまち	居住人口	A				
愛知県	豊田市	活力と賑わいの創出	平日歩行者通行量	A	①	②	②	③
			休日歩行者通行量	A				
			居住人口	A				
滋賀県	大津市	駅と港を結ぶ動線リニューアルによるにぎわい創出	休日の歩行者・自転車通行量	b	①	②	②	②
		町屋等の活用による複合的都市機能の充実	商店街における新規商業店舗数	A				
		琵琶湖湖岸・港における集客・交流機能の強化	琵琶湖観光入込客数	A				

都道府県名	市町村名	目標	目標指標	自治体評価			中活協議会 評価	市民 評価
				評価 分類	進捗・ 完了 状況	活性化 状況		
鳥取県	鳥取市	街なか居住の推進 賑わいの創出	中心市街地の居住人口(社会増減数)	A	①	②	②	③
			歩行者・自転車通行量(平日)	A				
			歩行者・自転車通行量(休日)	A				
			新規開業数	A				
広島県	府中市	賑わいの創出 歩いて暮らせる地域の形成	歩行者・自転車通行量(平日)	B	①	②	②	②
			歩行者・自転車通行量(休日)	A				
			府中ぐるっとバス平均利用者数	B				
			商業重点地区の商店の数	C				
大分県	大分市	激変する商業環境へのエリアマネジメントによる経営戦略の構築 変化するまちと既存ストックの連続性による魅力の向上 コミュニティ連携による新たな賑わいのスキーム構築	商業重点地区の商店の数	B	①	②	②	②
			人口動態(社会動態)	B				
			小売業年間商品販売額	B				
			歩行者通行量	B				
鹿児島県	鹿児島市	街なかのにぎわい創出と回遊性の向上 都市型観光の振興 商業・業務機能の集積促進	まちなか滞留時間(3時間以上の割合)	A	①	②	②	②
			歩行者通行量(土日、30地点)	c				
			中心市街地の年間入込観光客数	B				
			第三次産業従業者数	c				
平成25年7月1日認定								
新潟県	十日町市	暮らす人を増やす 訪れる人を増やす 活動する人を増やす	人口の社会動態(5年間)	C	①	②	②	②
			歩行者・自転車通行量(平日)	C				
			文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数	A				
香川県	高松市	商店街独自の魅力あるサービスを創出する まちのあちこちで歩いている人を増やす 中心市街地に、より住みやすい環境をつくる	中央商店街の空き店舗率(全フロア)	c	②	②	②	②
			中央商店街における歩行者通行量(休日)	c				
			市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合	C				
平成25年12月1日認定								
岩手県	盛岡市	賑わいあふれる中心市街地 訪れたくなる中心市街地	中心市街地の歩行者・自転車通行量	c	①	②	②	②
			大通コアエリア周辺の居住人口	b				
			盛岡市街の宿泊観光客数	A				
			もりおか歴史文化館の入館者数	C				